

令和4年度 学校経営計画書

石川県立津幡高等学校

学校長 山本智秀

1 教育目標

- ① 自ら学ぶ意欲を養い、知性を磨き、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- ② 思いやりの心を育み、社会性と協調性のある心豊かな人間を育成する。
- ③ 心身を積極的に錬磨し、健康で気力の充実したたくましい人間を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は平成13年に体育科（現在はスポーツ健康科学科と改称）と総合学科からなる学校に改編され、今年度創立99年目を迎える。地域や保護者から信頼され、選ばれる学校であろうと教育活動に取り組んでいる。
- ② スポーツ健康科学科の生徒は、各種競技大会や進学・就職で成果を挙げているが、近年、科内での学力差が目立つようになってきている。総合学科の生徒は、早期に進路目標を意識づける必要があり、「産業社会と人間」等を通したキャリア教育の充実が望まれる。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 学習意欲の向上 生徒の学習意欲を高め、達成感・満足感が得られるよう授業改善に努める。
- ② 基本的な生活習慣の定着 多様な視点による生徒理解に努め、全教職員が一致協力して生徒の規範意識の向上を目指す。
- ③ 希望進路の実現 進路指導課、学年の連携を密にし、3年間を見通した計画的で効果的な進路指導を行う。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 学校評価や人事評価および生徒による授業意識調査の活用により、本校の教育力向上に向けて教職員の積極的な意識改革を図る。
- ② 教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方を心がけ、心身の充実を図るとともに活力ある学校づくりの推進に積極的に参画する。
- ③ 教育目標達成のために、各課分掌の連携を深め、組織として教育活動にあたる学校体制づくりを進める。
- ④ 日々の教育実践や研修を通し、積極的に授業改善に努める。

3 今年度の重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立。（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）
- ② 授業の工夫・改善と生徒の希望進路の実現。（わかる授業の実践及び評価、GIGA スクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）
- ③ 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な競技力向上と生徒会活動の活性化。（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）
- ④ 教職員の時間外勤務を削減することによる教育活動の充実。（効率的な業務の推進）

令和4年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒指導課 総務課 生徒会課 各学年	登校指導を継続的に行っており、挨拶の励行をとおして、生徒のマナー向上を目指している。	【満足度指標】（保護者） 挨拶運動の取組により、すすんで挨拶する生徒が増えている。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	Dの場合は、挨拶運動の取組の拡充を再検討する。	7月、12月に調査
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	生徒指導課 各学年	登下校時に制服を正しく着用しない生徒や制服の着こなしの乱れに気づかない生徒が見受けられる。	【成果指標】（生徒） 生徒自身の意識が高まり、服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めている生徒が多い。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	Dの場合は、服装容儀・頭髪、マナー向上に関する取組を再検討する。	7月、12月に調査
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	生徒指導課 教務課 各学年	家庭との連携を密にして粘り強い指導に取り組んでいる。コロナ禍と不登校傾向の生徒の増加が、遅刻増加の要因と考えられる。	【成果指標】（生徒） 生徒の遅刻総数を過去5年間の平均と比べて減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 15%以上の減少である。 B 15%未満～5%以上の減少である。 C 5%未満の減少～5%未満の増加である。 D 5%以上の増加である。	Dの場合は、遅刻指導に関する取組を再検討する。	毎月調査
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	保健環境課 各学年	清掃や整理・整頓の指導により、校内環境美化の成果が上がっている。	【成果指標】（生徒） 生徒自身の環境美化への意識が高まり、整理整頓に努める生徒が多い。	積極的に教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	Dの場合は、清掃に関する取組を再検討する。	7月、12月に調査
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	教育相談課 各学年	自分の思いを表現することが苦手で、生徒間や教員とのコミュニケーションがうまくできない生徒がいる。	【満足度指標】（生徒） 学校生活が充実している、楽しい、と感じている生徒が多い。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	Dの場合は、心の教育等の取組の充実を検討する。	7月、12月に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 授業の工夫・改善と生徒の希望進路の実現。 (わかる授業の実践、GIGAスクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上)	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	教務課 各教科	I C T機器の活用度を高め、生徒の興味・関心を引き出し学習意欲も高めるような授業改善をすすめる必要がある。	【成果指標】（生徒） 授業において、生徒の興味・関心を引き出し、分かる授業を行うため、ワークシート及びI C T機器の活用などを積極的に行う。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	Dの場合は、授業改善の取組を再検討する。	7月、12月に調査
	② G I G Aスクール構想の推進を図る。	教務課 各教科	令和3年度80台配備されたクロムブックの使用頻度は高かったが、令和4年度は一人一台端末となったため、更に活用を推進する。	【努力指標】（教職員） 校外での行事を除いて毎日2回以上クロムブックを使って活動を行っている。	1日に2回以上、生徒に対しクロムブックを使って活動した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	Dの場合は、方法を検討する。	7月、12月に調査
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	体育管理課	スポーツ健康科学科と総合学科の差や女子の体力低下の傾向にも歯止めがかかった。	【成果指標】（生徒） スポーツテスト等の結果において、前年度の記録を超える生徒が増えている。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	Dの場合は、体力増進に関する取組を再検討する。	5月に調査
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路指導課 第3学年	令和3年度の卒業生は進学・就職希望者ほぼ全員が進路を決定した。多様な進路希望に対応するために組織的な指導体制と生徒一人一人に対するガイダンスの充実が求められる。	【成果指標】（生徒） ほぼ全員の生徒が進路を内定・決定する。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	C・Dの場合は、進路指導に関する取組を再検討する。	年度末に集計

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な競技力向上と生徒会活動の活性化。(全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信)	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングや実技指導を行う。	体育管理課 生徒会課 各部顧問	令和3年度は7部が全国大会出場を果たした。この結果を維持、向上させていく。	【成果指標】(生徒) 全国大会に出場する部活動の数が多い。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	Dの場合は、練習方法等を再検討する。	年度末に集計
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	体育管理課 生徒会課 各部顧問	部活動の実施計画において、鍛錬と休養のバランスが取れていない面がある。	【成果指標】(生徒) 日々の部活動は計画的で充実していると答える生徒が多い。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	Dの場合は、休養日を増やすなど部活動計画を再検討する。	7月、12月に調査
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会課 各学年	生徒会活動は、文化祭がメインと考えている生徒が多く、挨拶運動や委員会活動など日常の活動の理解が、まだ不十分である。	【成果指標】(生徒) 生徒会活動が活発に行われていると答える生徒が多い。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	Dの場合は、生徒会活動の在り方を再検討する。	7月、12月に調査
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	生徒会課 各学年	コロナ禍の影響が極めて大きかった。また生徒会が呼びかけたボランティアのみがボランティア活動であると、活動自体を狭くとらえている生徒が多い。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動の意義を理解し、様々なボランティア活動に参加する生徒の数が増えている。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	Dの場合は、ボランティア活動の意義を理解させる取組を充実させる。	7月、12月に調査
	⑤ 学校通信(校内、地域)の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	総務課 各部署	令和3年度の保護者アンケートでは、満足度が93%であった。ホームページの更新で不十分な面がある。	【満足度指標】(保護者) 学校の情報発信に対して満足している保護者が多い。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	Dの場合は、取組について再検討する。	

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
4 教職員の時間外勤務を削減することによる教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	各部署	臨時休業もあり、令和3年度において時間外勤務が月80時間以上の職員は延べ人数（12月集計）で26名であった。 【参考】12月集計 R2年：80時間以上24人 R元年：80時間以上53人	【努力指標】（教職員） 月80時間以上の時間外勤務のある職員が減っている。	月80時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A 0人である。 B（月数×1人）以下である。 C（月数×2人）以下である。 D Cを上回る。	Dの場合は、業務割当の平準化を再検討する。	7月、12月に調査
				【努力指標】（教職員） 教職員一人一人がタイムマネジメントを意識した働き方をしている。	（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	Dの場合は、業務改善の取組内容について再検討する。	7月、12月に調査